

高知県における生成AIの活用状況について

(高知県内企業に対するアンケート調査結果)

2025年10月15日



生成AIの活用状況についての高知県内企業へのアンケート調査結果

1. 調査結果の概要

① 生成AIの活用状況

全産業では「活用する予定はない」が最も多く52.6%、次いで「検討中」が25.9%。「活用している」は21.5%で、全国（25.3%）に比してやや低い水準。

規模別では、「従業員10人未満」は0%、「同200人以上」で38.9%となるなど、規模が大きいほど「活用している」割合が高い。

② 活用している分野

「業務効率化（文書要約、校正、データ整理）」が81.3%で最多。

③ 導入の目的

「生産性向上」が65.3%で最多、次いで「業務プロセスの変革」が38.7%。

④ 課題・懸念

「活用するノウハウや知識不足」が75.2%で最多。生成AIを活用する分野がない、もしくは分からないという意識が導入の障害となっている可能性があるとともに、人材や組織体制が不十分と考えている企業が多いとみられる。

(参考) 調査対象等

調査目的	高知県における生成AIの活用状況等の把握
調査対象	高知県内に事業所を置く法人158/239社（回答率66.1%）
調査方法	郵送、電子メール
調査事項	生成AIの活用状況、活用分野、活用の理由等
調査時期	2025年8月5日～9月2日（四銀地域経済研究所が4半期に一回実施する景況調査と同時に実施）

業種別回答企業数

業 種		企業数	構成比	業 種		企業数	構成比
製造業	飲食料品	12	7.6	非製造業	スーパー	6	3.8
	木材・木製品	5	3.2		衣料品販売	3	1.9
	製紙	6	3.8		飲食料品販売	6	3.8
	機械	9	5.7		自動車販売	5	3.2
	窯業・土石	4	2.5		建築資材販売	7	4.4
	その他製造	13	8.2		石油販売	4	2.5
	製造業 計	49	31.0		その他販売	21	13.3
					運輸・倉庫	8	5.1
					宿泊・飲食	11	7.0
					情報通信	5	3.2
					不動産・物品賃貸	3	1.9
					医療・介護・福祉	5	3.2
					その他サービス	8	5.1
					建設	17	10.8
					非製造業 計		109
合 計						158	100.0

資本金規模別回答企業数

規 模	企業数	構成比
1000万円 未満	16	10.1
1000万円以上 ～ 3000万円未満	67	42.4
3000万円以上 ～ 5000万円未満	42	26.6
5000万円未満 ～ 1億円未満	18	11.4
1億円 以上	12	7.6
資本金に該当しない企業	3	1.9
合 計	158	100.0

※資本金に該当しない企業…(社会福祉法人、医療法人等)

従業員規模別回答企業数

規 模	企業数	構成比
10人未満	16	10.1
10 ～ 49人	62	39.2
50 ～ 99人	34	21.5
100 ～199人	28	17.7
200人 以上	18	11.4
合 計	158	100.0

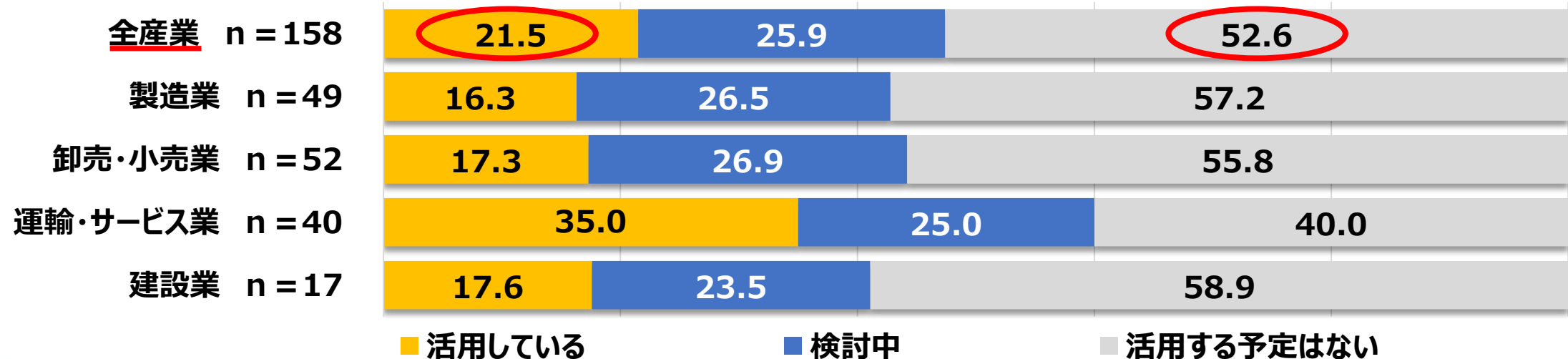
注：少数点第2位以下を四捨五入し、端数処理するため、合計が100%にならない場合がある。

2. 調査結果 ①生成AIの活用状況 ①全産業・業種別

- ◆ **生成AIの活用状況**について、「活用している」、「検討中」、「活用する予定はない」の3択で回答を求めた。
- ◆ **全産業で「活用する予定はない」が52.6%と最多。**次いで「検討中」25.9%、「活用している」は21.5%と全国（25.3%）と比してやや低い水準。
- ◆ **業種別では「運輸・サービス業」が35.0%と高いが、その他の業種は全て20%未満。**「運輸・サービス業」には情報通信業などが含まれており、他業種に比べ活用が進んでいるとみられる。

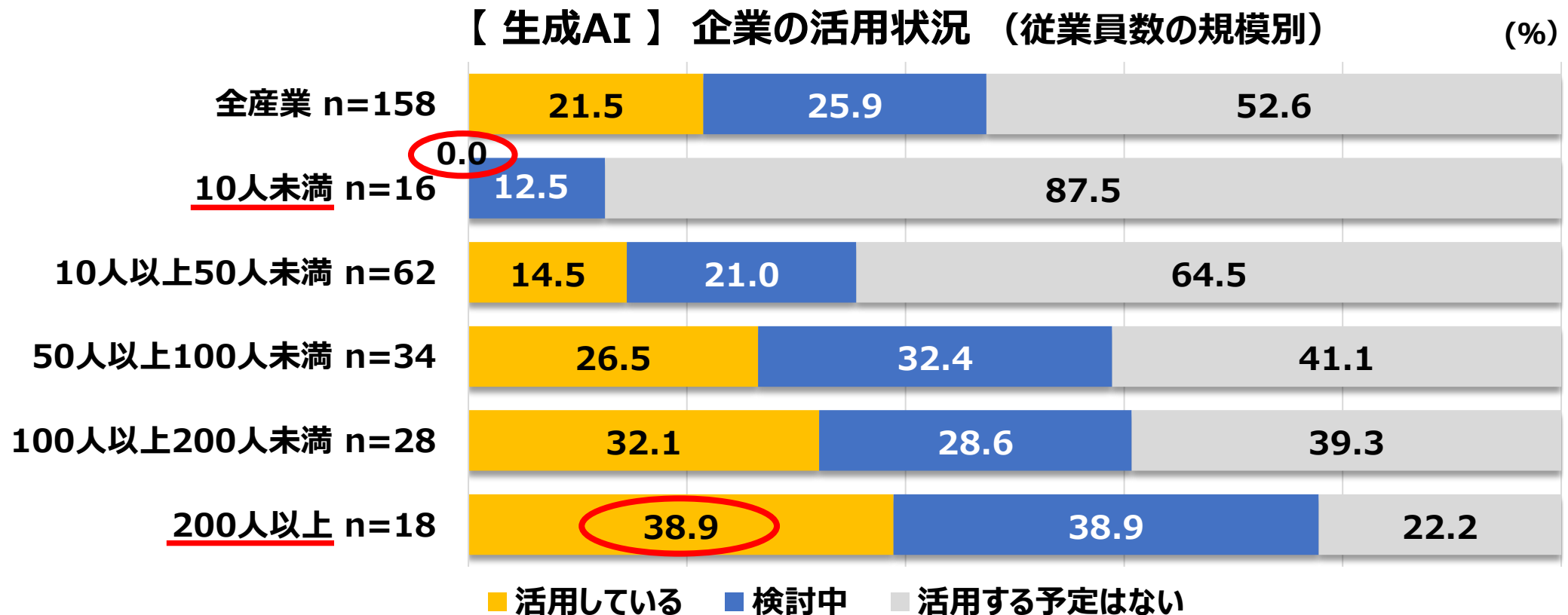
【 生成AI 】 企業の活用状況 （業種4区分別）

※無回答を除く
(%)



2. 調査結果 ①生成AIの活用状況 ②全産業・規模別（従業員数）

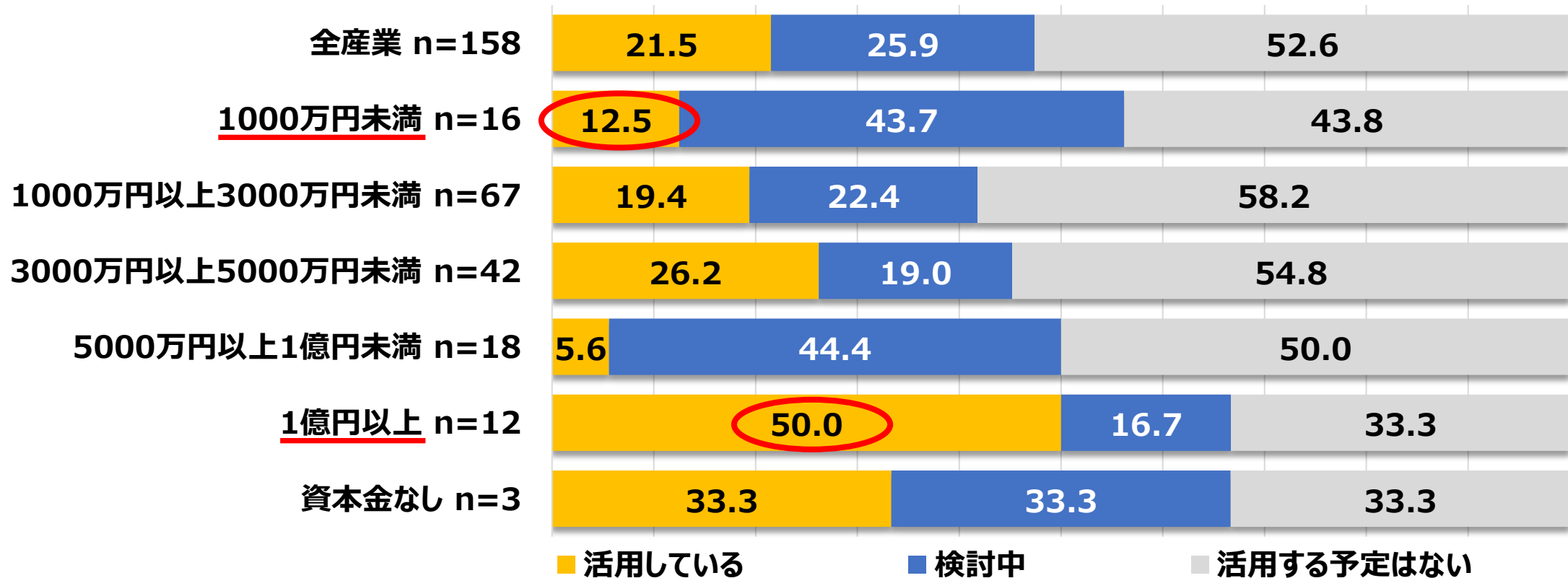
◆従業員数の規模別では、「10人未満」では「活用している」が0%、他方で「200人以上」で38.9%となるなど、規模が大きいほど「活用している」割合が高い。



2. 調査結果 ①生成AIの活用状況 ②全産業・規模別（資本金）

◆ 資本金の規模別では、「1000万円未満」では「活用している」が12.5%、他方で「1億円以上」で50.0%となるなど、概ね規模が大きいほど「活用している」割合が高い。

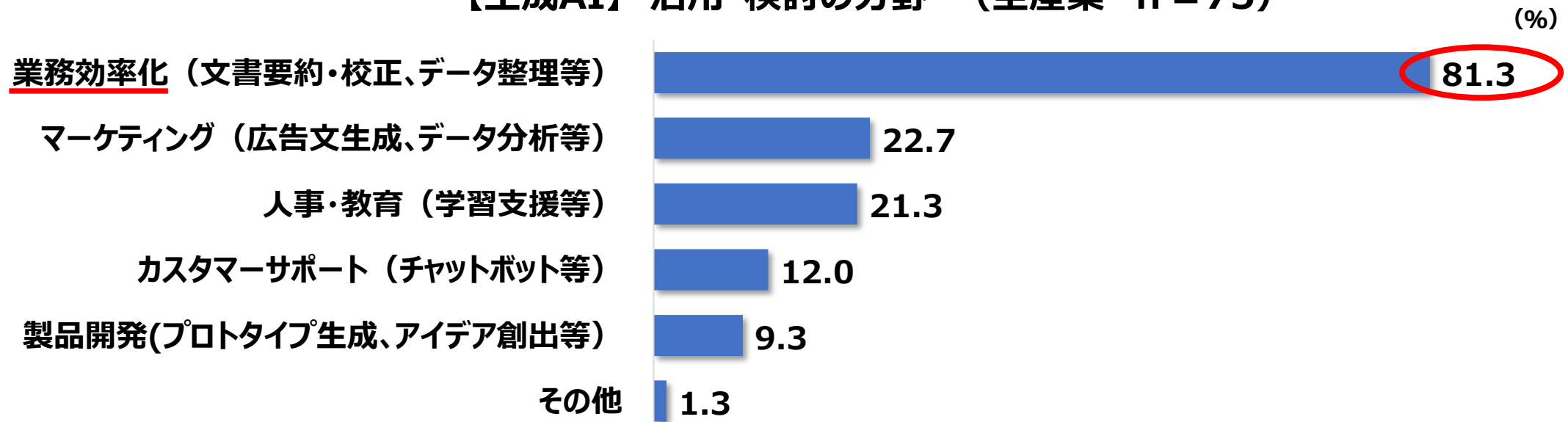
【 生成AI 】 企業の活用状況 （資本金の規模別） (%)



2. 調査結果 ②生成AIを活用している分野

- ◆「活用している」、「検討中」と回答した企業に、どの分野で活用しているか（検討含む）について、「カスタマーサポート（チャットボット等）」、「マーケティング（広告文生成、データ分析等）」、「製品開発（プロトタイプ生成、アイデア創出等）」、「業務効率化（文章要約・校正、データ整理等）」、「人事・教育（学習支援等）」、「その他」の6択で回答（複数回答可）を求めた。
- ◆「**業務効率化（文書要約、校正、データ整理）**」が**81.3%で最多**。業務効率化に資する分野での利用が圧倒的多数。

【生成AI】 活用・検討の分野 （全産業 n = 75）

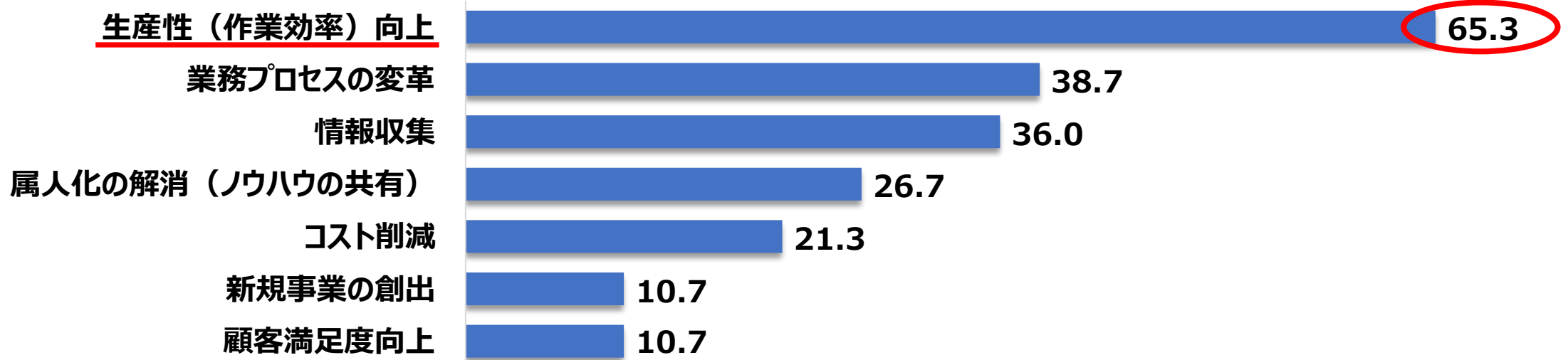


2. 調査結果 ③生成AI導入の目的

- ◆「活用している」、「検討中」と回答した企業に、導入の目的について、「コスト削減」、「生産性（作業効率）向上」、「新規事業の創出」、「顧客満足度向上」、「情報収集」、「業務プロセスの変革」、「属人化の解消（ノウハウの共有）」、「その他」の8択（複数回答可）で回答を求めた。
- ◆「生産性（作業効率）の向上」が65.3%で最多。どの分野で活用しているかに関連していることもあって、業務効率化や従業員の負担軽減に資することが導入の目的となっている。

【 生成AI 】 導入の目的 （全産業 n = 75）

(%)

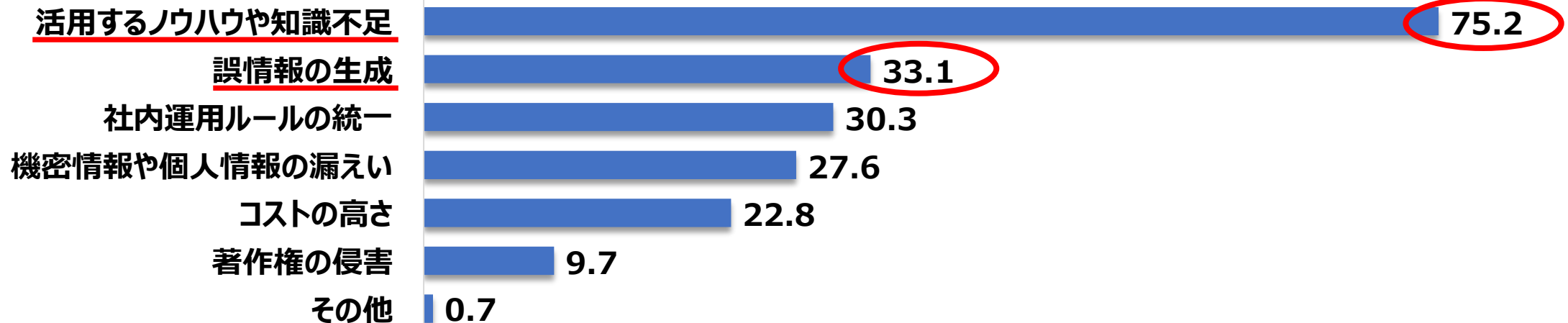


2. 調査結果 ④生成AIに関する課題・懸念

- ◆「活用している」、「検討中」、「活用する予定はない」と回答した企業に、課題や懸念について、「コストの高さ」、「誤情報の生成」、「活用するノウハウや知識不足」、「著作権の侵害」、「社内運用ルール統一」、「機密情報や個人情報の漏えい」、「その他」の7択（複数回答可）で回答を求めた。
- ◆「活用するノウハウや知識不足」が75.2%で最多。「誤情報の生成」が33.1%の2位。
- ◆「活用するノウハウや知識不足」に関して、「活用する予定はない」と回答した企業においては、生成AIを活用する分野がない、もしくは分からないという意識が導入の障害となっている可能性がある。また、「活用している」・「検討中」と回答した企業においては、人材や組織体制が不十分と考えているところが多いとみられる。「誤情報の生成」については、ハルシネーション（正確な情報ではない）の懸念を持つ企業が多いためと推察される。

【生成AI】導入の課題や懸念点（全産業 n = 145）

(%)



3. まとめ

- ◆ 調査時点（2025年8月5日～9月2日）では、**高知県内企業の生成AI活用**に関し、「**活用している**」は**21.5%**と**全国（25.3%）**よりやや低い水準。規模別では、「従業員10人未満」は0%、「同200人以上」で38.9%と、**規模が大きいほど活用割合が高い**。
- ◆ **活用している分野**については「**業務効率化**」が、**導入の目的**については「**生産性向上**」がそれぞれ最多。
- ◆ 全産業や規模別での**活用状況や目的等の割合**などは、**全国のトレンドとほぼ同じ**。
- ◆ **生成AIの活用による業務効率化や生産性の向上により**、企業は顧客との対話や取引先との折衝等により多くの時間を充当可能で、また本業などの業務を遂行する時間を増加できる。この結果、**企業競争力が高まり**、ひいては**収益力の改善につながる**。**県内でも既に一定数の企業が活用中**である。
- ◆ **生成AI市場は今後さらに拡大する**とみられ、企業経営や日常生活への影響も大きくなる見込みである。
- ◆ **人手不足・担い手不足が続く中、生成AIを始めとするDX（デジタル化）を用いた業務効率化や生産性向上は不可避**と考えられる。**県内企業が、生成AIの活用により課題を解決し、さらに成長することを期待したい**。

(参考 1) 日本企業に対する生成AI活用状況のアンケート調査

生成AI活用状況に関する全国分のデータについて

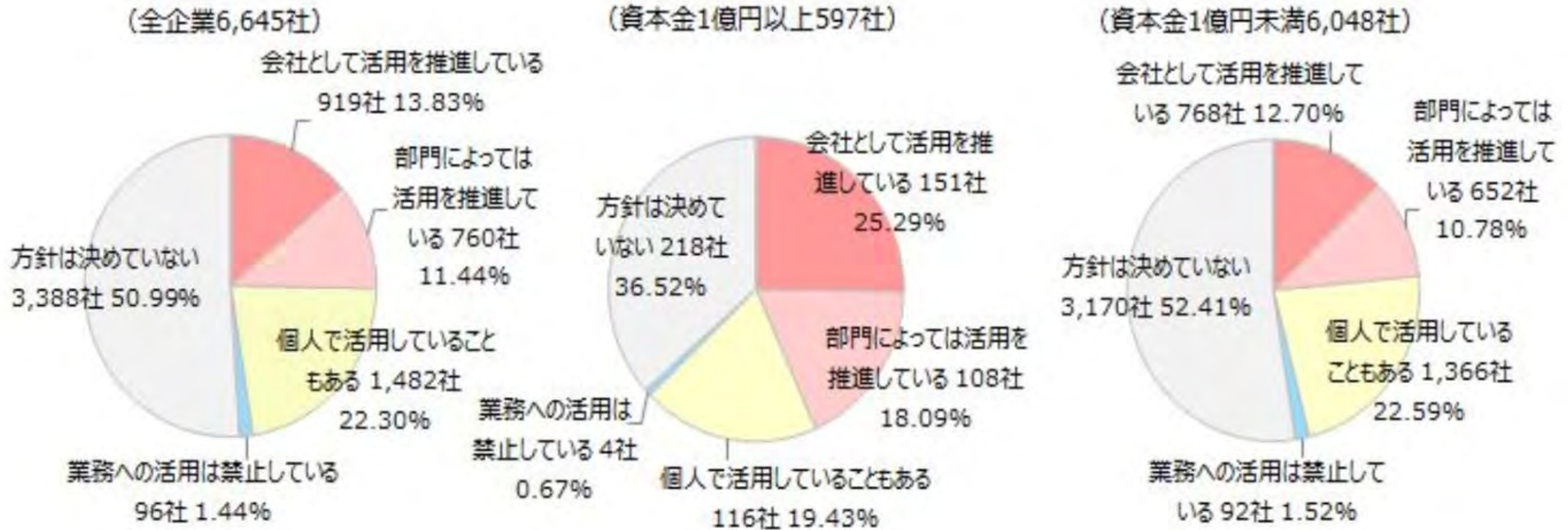
今回比較に使用した全国データについては、“2025年「生成AIに関するアンケート」調査”（東京商工リサーチ・調査期間：2025年7月30日～8月6日）を用いた。

また、高知県との生成AIの活用状況比較に用いたデータについては、上記東京商工リサーチ調査における全企業6645社のデータ「会社としての活用を推進している」13.83%、「部門によっては活用を推進している」11.44%の合計25.27%≒25.3%を「活用している」とした。

なお、上記同調査における資本金 1 億円未満の会社6048社のデータ（全産業に占める割合は91.0%）の場合、「活用している」割合は、「会社としての活用を推進している」12.70%、「部門によっては活用を推進している」10.78%の合計23.48%≒23.5%となる（参考：今回調査における高知県内回答企業の92.5%が資本金 1 億円未満）。

(参考2) 日本企業に対する生成AI活用状況のアンケート調査

① 生成AIツールの業務活用を推進していますか？



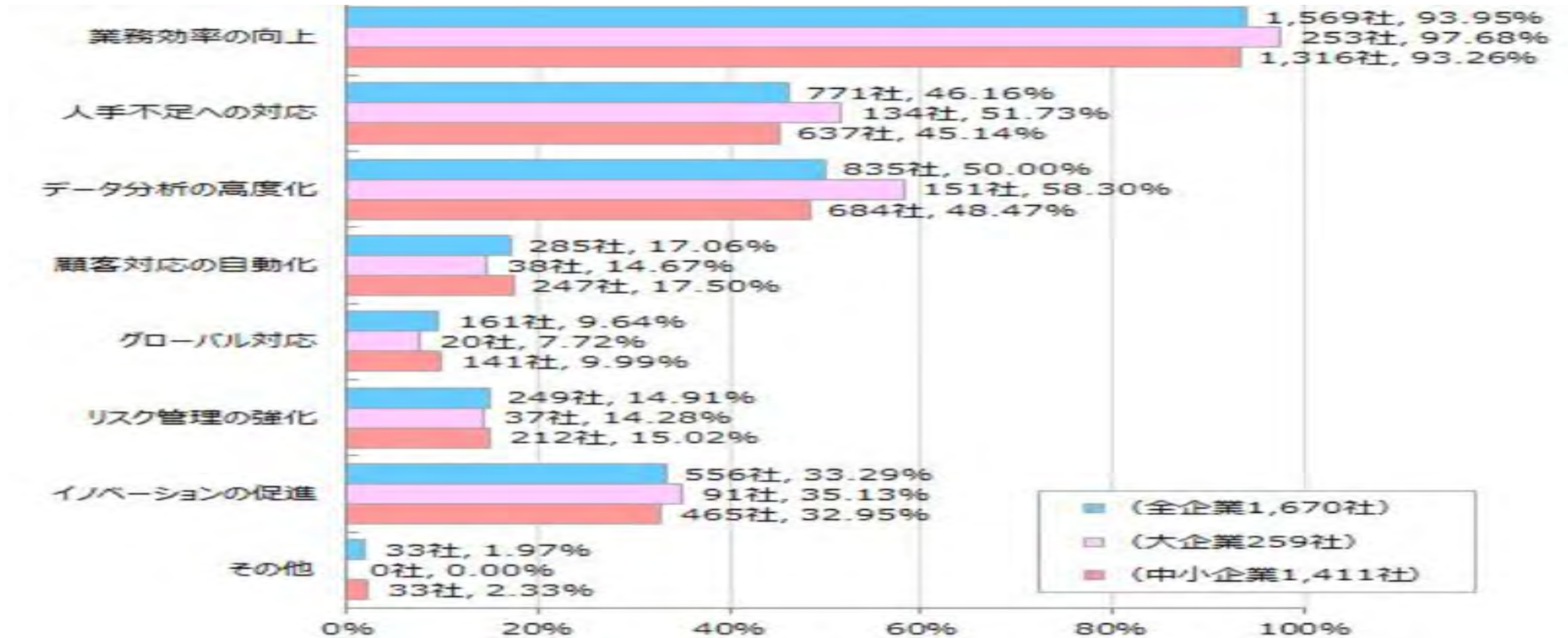
出典：東京商工リサーチ

※調査期間：2025年7月30日～8月6日、調査対象・有効回答数：6,645社、資本金1億円以上を大企業、1億円未満（個人企業等含む）を中小企業と定義

調査方法：インターネット調査

(参考3) 日本企業に対する生成AI活用状況のアンケート調査

②活用を推進する理由は何ですか？（複数回答）



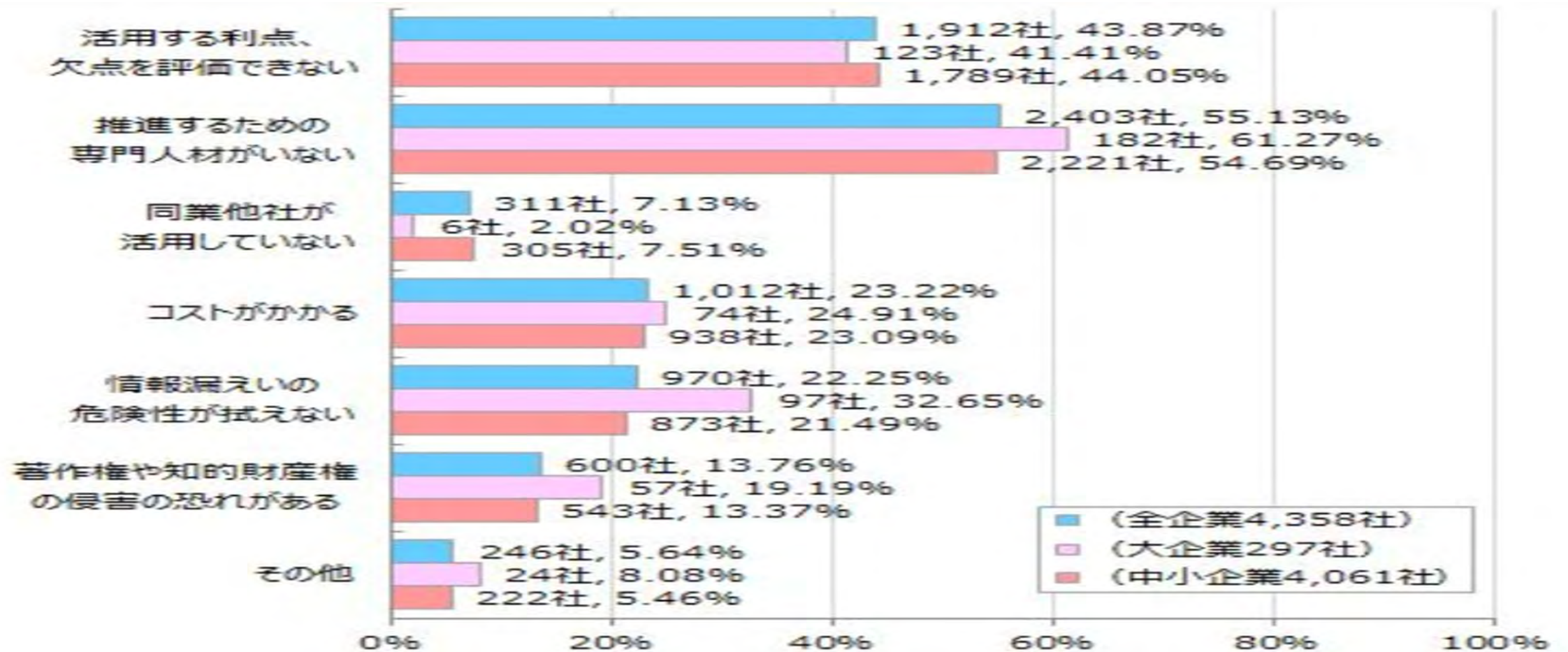
出典：東京商工リサーチ

※調査期間：2025年7月30日～8月6日、調査対象・有効回答数：6,645社、資本金1億円以上を大企業、1億円未満（個人企業等含む）を中小企業と定義

調査方法：インターネット調査

(参考4) 日本企業に対する生成AI活用状況のアンケート調査

③会社として生成AIの活用を推進していない理由は何ですか？（複数回答）



出典：東京商工リサーチ

※調査期間：2025年7月30日～8月6日、調査対象・有効回答数：6,645社、資本金1億円以上を大企業、1億円未満（個人企業等含む）を中小企業と定義

調査方法：インターネット調査

**経済・金融等に関する講演等の依頼が
ございましたら、下記QRコードにあるホーム
ページのお問い合わせフォームから弊社宛
ご連絡ください。**





地域と共に未来を創造する

(株) 四銀地域経済研究所

〒780-0823 高知市菜園場町1-21

Tel : 088-883-1152 (代表)

Mail : shigincr@crux.ocn.ne.jp